

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 12 日 (2007.7.12)

【公表番号】特表 2006-517690 (P2006-517690A)
 【公表日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-029
 【出願番号】特願 2004-537309 (P2004-537309)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 21/20 (2006.01)

G 0 9 C 1/00 (2006.01)

G 0 6 F 21/22 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 15/00 3 3 0 D

G 0 9 C 1/00 6 6 0 D

G 0 6 F 9/06 6 6 0 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 5 月 25 日 (2007.5.25)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

分散コンピューティング・ドメインにおける方法であって、
 管理オブジェクト及びユーザ・オブジェクトを 1 つ又は複数のアプリケーション・サーバに分散するステップと、
 管理オブジェクトのドメイン・レベル・セキュリティのためのグローバル・セキュリティ・フラグを定義するステップと、
 1 つ又は複数のアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグを前記分散管理オブジェクトへのインターフェースに関連付けるステップと、
 前記グローバル・セキュリティ・フラグ及び前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが有効である場合に、ユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを保護する第 1 モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが有効であり、かつ前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが無効である場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクトを用いるが、管理オブジェクトを保護する第 2 モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが無効である場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを用いる第 3 モードを含むモードのうちの 1 つにおいて、1 つ又は複数のセキュリティ・オペレーションを、アプリケーション・サーバによってクライアント・プロセスと協同して実行するステップと、
 を含む方法。

【請求項 2】

セキュリティ・オペレーションを実行する前記ステップが、管理オブジェクト及びユーザ・オブジェクトのために別個のセキュリティ・オペレーションを提供するステップを含む請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

アプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグを管理オブジェクト・インターフェ

ースに関連付ける前記ステップが、アプリケーション・サーバのユーザ・オブジェクト・セキュリティが有効である場合に、アプリケーション・サーバ上のユーザ・オブジェクトについてタグ付きコンポーネントを備えた C O R B A I O R をエクスポートする アクション、及びアプリケーション・サーバのユーザ・オブジェクト・セキュリティが有効である場合に、アプリケーション・サーバ上のユーザ・オブジェクトについて U D D I レジストリにオブジェクト・タイプを提供する アクションを含むアクション群から選択されるアクションを 実行するステップ含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

保護されるべきオブジェクトの宣言リストにアクセスする ステップをさらに含む、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

認証、許可、及びトランスポート保護のリストから選択されたセキュリティ・オペレーションを実行する ステップを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

シンプル・オブジェクト・アクセス・プロトコル及び O R B 間プロトコルを含む プロトコル群から選択されたセキュリティ・プロトコルが 使用される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

分散コンピューティング・ドメインにおいて用いるためのコンピュータ・プログラムであって、該プログラムがコンピュータ上で実行されるときに、

管理オブジェクト及びユーザ・オブジェクトを 1 つ又は複数のアプリケーション・サーバに分散するステップと、

管理オブジェクトのドメイン・レベル・セキュリティのためのグローバル・セキュリティ・フラグを定義するステップと、

1 つ又は複数のアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグを前記分散管理オブジェクトへのインターフェースに関連付けるステップと、

前記グローバル・セキュリティ・フラグ及び前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが有効である場合に、ユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを保護する第 1 モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが有効であり、かつ前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが無効である場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクトを用いるが、管理オブジェクトを保護する第 2 モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが無効である場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを用いる第 3 モード を含むモードのうちの 1 つにおいて、1 つ又は複数のセキュリティ・オペレーションを、アプリケーション・サーバによってクライアント・プロセスと協同して実行するステップと、

を実行するように構成されたプログラム・コード手段を含む、コンピュータ・プログラム。

【請求項 8】

分散型コンピュータ・ドメインにおけるオブジェクト・レベル・セキュリティ・システムであって、

1 つ又は複数のアプリケーション・サーバに分散された 1 つ又は複数の管理オブジェクト及び 1 つ又は複数のユーザ・オブジェクトを 記録する手段と、

ネットワーク・コンピューティング・ドメイン・レベル内の前記管理オブジェクトのセキュリティを定義するグローバル・セキュリティ・フラグを 記録する手段と、

前記分散管理オブジェクトへのインターフェースに関連付けられた 1 つ又は複数のアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグを 記録する手段と、

前記グローバル・セキュリティ・フラグ及び前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが有効である場合に、ユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを保護する第 1 モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが有効であり、かつ前記関連付けられたアプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが無効である

場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクトを用いるが、管理オブジェクトを保護する第2モードと、前記グローバル・セキュリティ・フラグが無効である場合に、セキュリティ・オペレーションなしにユーザ・オブジェクト及び管理オブジェクトを用いる第3モードを含むモードのうちの1つにおいて、アプリケーション・サーバによってクライアント・プロセスと協同して実行可能な1つ又は複数のセキュリティ・オペレーションを実行する手段と、
を含むシステム。

【請求項9】

前記セキュリティ・オペレーションが、管理オブジェクト及びユーザ・オブジェクトのための別個のセキュリティ・オペレーションを含む、請求項8に記載のシステム。

【請求項10】

管理オブジェクト・インターフェースに関連付けられた前記アプリケーション・サーバ・セキュリティ・フラグが、アプリケーション・サーバのユーザ・オブジェクト・セキュリティが有効である場合に、アプリケーション・サーバ上のユーザ・オブジェクト用のタグ付きコンポーネントを備えたCORBA IORと、アプリケーション・サーバのユーザ・オブジェクト・セキュリティが有効である場合に、アプリケーション・サーバ上のユーザ・オブジェクト用のUDDIレジストリにおけるオブジェクト・タイプとからなるグループから選択されたオブジェクト・タイプ・インジケータを含む、請求項9に記載のシステム。

【請求項11】

どのIOR又はUDDIレジストリ・エントリがユーザ・オブジェクト・セキュリティを有効にさせるのに修正されるべきかを判断するための、保護されるべきオブジェクトの宣言リストをさらに含む、請求項10に記載のシステム。